

## 「いるまの」

「仲よくする子考える子やりぬく子」の育成



## 後期学校評価の結果から、 「学校運営改善施策」立案

これまで、7月に実施した学校評価と児童・保護者前期アンケート結果を分析し、検討して立案した、下記の「後期学校運営改善施策」に入間野小学校の全教職員が一丸となって取り組んできました。

**合言葉は、「相手に届く声で話し、質問ができる子の育成」**です。

- 【1】教室内で、聞こえる声で意見を言う子を育成する。
- 【2】相手の考えを分かろうとして、問い返したり質問したりする子を育成する。
- 【3】思いやりのある言葉遣いができる児童を育成する。
- 【4】文字を丁寧に書いたり写したりする子を育成する。

その結果、どのような成果と課題が見られるのか、後期学校評価を12月に実施し、教職員の自己評価と共に、児童・保護者アンケートを実施しました。今回93%の回収率となりました。ご多用にもかかわらず、皆様のご理解とご協力をいただき、あらためて感謝申し上げます。前期と同様、この結果を分析し、今後の学校運営改善施策を立案しました。関連させた後期学校評価項目の結果は、裏面をご覧ください。

### 後期学校評価の結果の概要

【教職員の自己評価】では、

◎特に、「考える子」の育成は、後期が高評価を得ました。

- ・教室に届く声で、意見を言っている子が育成できたか。《プラス0.3点》
- ・文字を正しく書いたり、写したりする子が育成できたか。《プラス0.3点》
- ・相手の考えを問い返したり、質問したりする子が育成できたか。《プラス0.5点》

\*「学級活動」の学校研究を通して、児童に「話し合いの力」が付き、「みんなのために考え、行動する児童」の育成が図られたと感じている教員の姿が見られます。また、児童が落ち着いて学習に向かう姿勢も整えられ、学習が充実しているようです。

▼評価が低くなった項目としては、「家庭学習の手引き」を利用した「家庭学習」の習慣化、「適時な教育相談」が上げられます。《どちらも、マイナス0.2ポイント》

\*利用しやすい「家庭学習の手引き」について検討し、家庭学習の習慣化に取り組みます。また、担任対応による教育相談を、校内の教育相談部の組織で対応できるように検討していきます。

【保護者の方のアンケート】と【児童用アンケート】では、同じような結果が得られました。

◎「先生は、分かるまで教えてくれる」「先生は、困った時に相談に乗ってくれる」「学校は、規律ある態度を身につけさせている」「学校は、体力を向上させるための環境づくりに取り組んでいる」「学校は、教育活動を充実させるため地域や保護者の支援を生かしている」の項目が、高得点でした。

▼「丁寧な言葉遣いをしている」「文字を丁寧に書いている」についての得点は、他に比べて低く、児童も課題であると感じている様子が窺えました。

\*他、児童は、「火事や地震の時の避難の仕方が分かっている」「校庭は、みんなが安心して遊んだり運動したりすることができる」が高得点であり、保護者は、「学校は、学年・行事等の会計の処理管理は、適切になされている」が、高得点でした。

# 入間野小学校平成 30 年度後期学校評価



\* a (4点) b (3点) c (2点) d (1点) として点数化

\* 3.4 点以上は A 2.8 点以上~3.4 点未満は B 2.8 点未満は C

\* 前期と比較し、ⓑは、+2 △は、-2 ポイントであったことを示しています。

NO	項 目	教職員	児童	保護者
1	児童は、分からないことは質問しながら学習している。	ⓑ 3.1	B 3.2	B 3.0
2	児童は、文字を丁寧に書いている。	B 3.1	B 3.0	B 2.8
3	児童は、進んで家庭学習に取り組んでいる。	B 2.9	B 3.1	B 2.9
4	児童は、自分から目を見て挨拶をしている。	B 3.0	A 3.4	B 3.0
5	児童は、「時間いっぱいもくもくピカピカ掃除」をしている。	B 3.3	B 3.3	
6	児童は、集団のために活動に取り組んでいる。	B 3.2	B 3.2	B 3.1
7	児童は、あきらめずに最後まで取り組んでいる。	ⓑ 3.3	B 3.3	B 3.1
8	児童は、進んで運動に取り組んでいる。	B 3.2	A 3.5	B 3.2
9	児童は、いざという時の行動の仕方が分かっている。	ⓑ 3.2	A 3.7	B 3.1
10	学校は、計算や漢字などの基礎基本を身につけさせている。	A 3.4	A 3.7	A 3.4
11	学校は、自ら考える力をつけている。	B 3.2	B 3.3	B 3.2
12	学校は、安心して過ごせるあたたかな学級をつくっている。	B 3.2	B 3.2	B 3.3
13	学校は、規律ある態度を身につけさせている。	A 3.6	A 3.4	B 3.3
14	先生は、困ったときに相談に乗ってくれる。	△ 3.1	A 3.5	B 3.3
15	学校は、体力を向上させるための環境づくりに取り組んでいる。	B 3.2	A 3.7	A 3.4
16	家庭では、健康診断の結果を子供たちの健康管理に生かしている。	B 3.3		B 3.3
17	学校は、美しい環境を保持している。	B 3.3		B 3.3
18	学校は、教育活動を充実させるため、地域や保護者の支援を生かしている。	B 3.3	A 3.7	A 3.4
19	学校は、学年・行事等の会計の処理管理を適切にしている。	A 3.6		A 3.6
20	職員は、意図的・計画的に学年・学級経営を進めることができた。	B 3.3	※以下は、教職員の自己評価結果をお知らせしています。	
21	職員は、校内研修に意欲的に取り組み、自己研鑽に努めた。	B 3.3		
22	職員は、報告、連絡、相談を密にし、意欲的に職務遂行に取り組んだ。	A 3.5		

## 後期に向けた改善点・正しいことを行い、注意を促せる児童の育成

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。保護者のアンケート回収率は、93 %でした。この結果や各種学力調査を分析し、「3 学期からの教育活動改善施策」を立案しました。

- 1年
  - ・正しいことは何かをしっかりと教え、家庭学習では、宿題プラスαに挑戦していく。
  - ・とめ、はね、はらいをしっかりと机間指導しながら見届け、やり直しの指導をする。
- 2年
  - ・自分を振り返ることができるような自省心を養い、宿題プラスαの内容を紹介する。
- 3年
  - ・正しいことが認められる学級の雰囲気をつくり、視写や新出漢字の指導で丁寧に書かせる。
- 4年
  - ・家庭学習について、具体的な資料を紹介して、児童の意識を高める。
  - ・ポイントを絞って文字指導を行う。
- 5年
  - ・正しいことをぶれずに貫いていけるように指導する。
  - ・TPO に応じた文字指導を行う。
- 6年
  - ・軽く考えて言ったりしてしまったりすることが、相手を傷つけたり、正しいことを言えなくしてしまう雰囲気をつくったりしていることに気づかせ、適時、指導していく。
  - ・家庭学習の意欲については、二極化の傾向が見られる。内容を見合うなど、互いに啓発していく。